

ローマイヤの決算、売上高5%減の減収・経常損失で赤字

ローマイヤ(株)は11日、平成24年3月期決算を公表した。売上高は119億7300万円(5.5%減)、営業損失1億2千万円(前年同期営業利益7千万円)、経常損失1億3800万円(同経常利益5500万円)となり、固定資産の減損損失や退職給付制度改定による費用を特別損失に計上したため、当期純損失1億9900万円(同純損失1600万円)となった。

加工食品事業は、放射能汚染問題で食品の安全性が問われ、特に牛肉類などの食肉商品は売上が伸びず、ローストビーフや牛肉を主体としたミートギフトや惣菜等の販売量が減少。ハム・ソーセージなど食肉加工品は販売促進キャンペーンを実施し「フェストエッセンシリーズ」などの販売強化に努めたが、所得環境の悪化から消費低迷や低価格志向の影響を受け、百貨店や通販企業などへのギフト商品が苦戦を強いられた。売上高は81億7500万円(2.4%減)。その他惣菜等は、仕入先の被災やセシウム問題で焼肉キット商品やステーキ類がふるわず、価格競争も激しく、売上高は37億9500万円(11.6%減)に。その他の事業は不動産の賃貸収入のみで、売上高200万円(前年同)。次期業績予想は、売上高120億円、営業利益1億8千万円、経常利益1億6千万円、純利益1億5千万円を見込んでいる。

TOKYO—X高級路線強め、見かけ落ち2割を加工・総菜用に

東京都の畜産試験場(現都農林水産振興財団)が1997年に開発した高級豚肉「TOKYO—X(トウキョウエックス)」の流通販売を受け持っている「TOKYO—X Association(植村光一郎会長)」は、今月17日の総会で肉質規格の厳格化により肉質の劣る約2割の豚肉について、店頭での小売販売を行わずにハム・ソーセージや総菜用に仕向ける方針を決定する意向だ。高級路線の強化により、より明確に良質豚肉は高い価格評価を実施して、農家の再生産の確保と合わせて肉質維持も図る。今回、加工用や総菜用に回す予定の約2割のX豚肉は、味では何ら遜色はないものの見かけ等で劣るため、この部分の豚肉を有効活用して高級路線の維持も図るべく、総会で生産サイドと流通サイドの両者から了承を取り付ける考えだ。植村会長は「販売店からの要望として、現行の正肉単価1302円は高過ぎるので値下げして欲しいとの声があるが、本来に良い豚肉の再生産販売を維持するためにも値下げは出来ないが、見かけ等で劣る2割の豚肉を精肉販売用に戻さず、加工・総菜用として活用したい」と述べ、具体的にはハムやソーセージ、角煮、ハンバーグ等を生産・販売して、Xのファン層の拡大を目指す。

「住所移転」全農畜産サービス

全農畜産サービス(株)はこのほど、本社を移転した。5月28日から業務を開始する。なお電話・FAXは従来通り。「新住所」東京都江東区冬木11番17号イシマビル16階。